モンゴル高校生が訪問

吉原高 授業参観や部活見学

モンゴルの高校生交流団が23日、吉原高（清水正信校長）を訪問した。

交流団は同国ドルノゴビ県などの高校に通う生徒40人と引率教諭5人。同校生徒と一緒に授業に参加し、日本の教育を体験したほか、放課後には部活動見学などを行い生徒同士の交流を深めた。

授業参加では、2グループに分かれて普通科理系2年生の物理と生物を受講した。このうち物理の授業では、音叉（おんさ）を打ち鳴らしたときの音の高さを、気柱共鳴装置を使って調べる実験に取り組んだ。

放課後には箏曲部や書道部の活動を体験したほか、運動部が練習する様子を見学した。同校2年の牧野太紀さんによる津軽三味線の演奏もあり、日本文化への理解を深めた。

歓迎式も行われ、清水校長が「本校では多文化共生を重視し、『世界に開かれた学び』を推進している。この訪問が、モンゴルの皆さんと本校の強い結びつきの第一歩になればうれしい」と話した。

交流団は22日に来日し、29日までの8日間、県内の高校訪問や名所の見学、カヌー体験、県教育長への表敬訪問などを行う。

県は平成23年に同国ドルノゴビ県と友好提携を結び、教育や文化、行政、経済、スポーツなどの多分野で交流を促進している。24年からは高校生の相互交流事業も始まった。

毎年7月から8月ごろに静岡県の高校生約25人がドルノゴビ県などを訪問し、相互派遣として毎年10月ごろにモンゴルの高校生交流団が来県し、県内の高校を訪問している。

同校では平成6年に国際科を創設して長期留学生の派遣や受け入れに取り組んでいるほか、台湾の馬公（マコウ）高校と姉妹校提携を結ぶなど、相互交流に注力。国際交流に向けた取り組みが評価され、訪問校に選ばれた。

実験に取り組む交流団（右2人）と同校生徒

装い彩るマフラー

川成島で秋の手づくり展

富士市川成島在住の手織り作家・井上茜さんの自宅兼工房Tafetan（タフェタン）で「秋の手づくり展」が開かれている。28日（日）まで。午前10時―午後4時。

装いを彩る手織りのマフラーやストール、バッグなど井上さんの作品のほか、仲間の手作り作家約10人による着物のリメークやアジア雑貨、パッチワークのポーチなど1000点余りを紹介。温かみあふれる作品の数々が、手作りの魅力を伝えている。

井上さんが手掛けたさまざまな色のマフラーは、自宅で栽培しているクルミやビワなどを草木染めした糸を用いて、織り機で仕上げた。自然の風合いを生かした力作が、来場者の目を楽しませている。

「創作を進める中で、予想とは違う良いものができたときの驚きや喜びが手作りの魅力。時間をかけて作ることの喜びを作品から感じてもらえれば」と期待を込める。

手づくり展は春と秋の年2回開催している。タフェタンの住所は川成島121―1。

手づくりマフラーなどが並ぶ展示会

文化財を訪ねて

富士文化財愛好会　宮崎　武頼

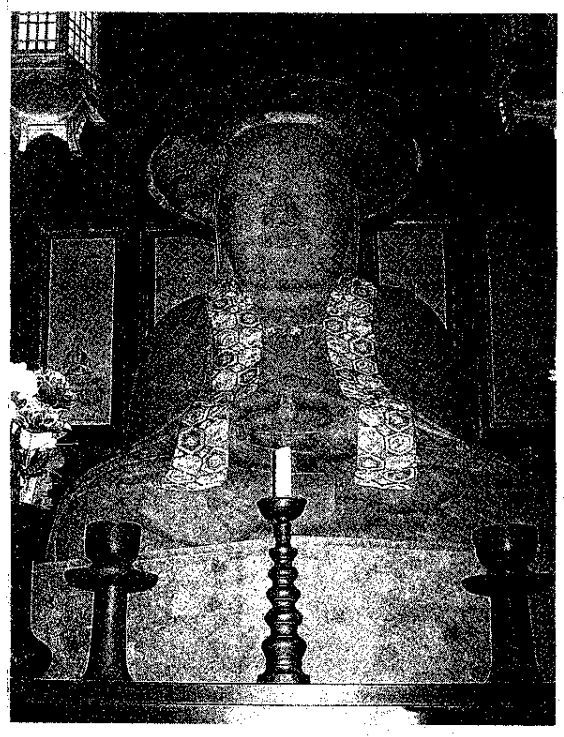
笠被り地蔵尊

「笠地蔵　子の供養から　延命神」ここ中之郷、曹洞宗浄厳山宗清寺を訪ねた。門前に大きな説明板が建つ「石造　笠被り地蔵尊　本像は頭上に大きな笠を戴き、手は法界定印を結び宝珠を持ち、結跏趺坐（けっかふざ）する。像立1・55㍍・笠1㍍。笠を除き一石に彫られている。

寛政九年（1797）十月二十四日、宗清寺二十二世道察観光和尚の代に、当時中之郷村名主田中傳四郎が夭折（年が若くて死ぬこと）した愛児の追善供養のために、由比川上流の石材で信州（長野県）石工又兵衛・金左衛門に制作させて寄進したものである。

造立当時は山門右側に安置され、前面を通る東海道に向かっていたので、雄大な規模と悲顔あふれる像容が旅人達の評判となり、笠被り地蔵尊の名声は高かった。

二十七世堅龍正教和尚が現地に遷座し、昭和五十四年、覆堂を建てて保護した。当町では最大の石造仏で、信州石工の手になる秀作である」と記されている。



幾つかの階段を昇ると立派な薬医門が迎えてくれる。「浄厳山」の扁額と「梅花観音霊場」の木札が架かる。正面には堂々たる本堂、宝形造に相輪が高々と聳え素晴らしい建造物である。

庫裡の受付で住職にご挨拶できた。「笠被り地蔵」の拝観をお願いする、温厚な人柄の住職に寺の諸行事について詳しく説明していただいた。また「ここの笠被り地蔵尊は福地蔵といわれ、延命地蔵として百八十年余りの長い歳月人々の信仰を集めています。誠に有難い地蔵尊です、ごゆっくりとお参りください」との言葉をいただいた。

妻入りのお堂には「延命閣」の扁額が架かり「駿河一国百地蔵第九十番」の木札が書されている。一礼して広い堂内に入ると「命福地蔵菩薩」の赤提灯が二基下がる。高い壇の上石台座に大きな笠を頭上に乗せた地蔵尊が鎮座する。豊満な尊顔は微笑んでいて愛くるしい。衲衣で身を包み、花模様の赤い「ちゃんちゃんこ」を着てとても可愛らしい。両手で大事に宝珠をしっかりと持っている。何と大きくて素晴らしい彫刻の石造物であろう。後背には、阿弥陀如来・不動明王・大日如来・勢至菩薩・文殊菩薩・普賢菩薩・虚空蔵菩薩・千手観音の8仏が揃って並び地蔵尊を温かく見守っている。

仏教の祖である釈迦入滅後世界は無仏になる。地蔵菩薩は56億7000万年後に、弥勒菩薩が出生するまでの間、その世界に住んでいる人々を救済する菩薩といわれている。日本には地蔵さんは中国を経由して伝わり、平安から鎌倉時代に地蔵信仰として人々の間で広まった。仏教にある数多くの仏のなかでも、お地蔵さんは特に庶民に親しまれた。地蔵信仰の教えでは、私たちは死後冥土で閻魔さまに裁かれ、地獄の責め苦を受けたあと、地蔵さんの慈悲で救われるという。これは庶民にとってもわかりやすい教え。仏教には、親より先に死んだ子供は三途の川を渡れないという教えがある。賽の河原で鬼に虐められ数々の仕打ちを受ける。この時も地蔵さんが必ず子供を救ってくれるという。ほかにもさまざまな病気を治したり、子供を授けたり、子供を守ったりする有難い仏様である。

笠地蔵さんといえば「日本昔ばなし」がありる。心の優しいおじいさんとおばあさんの話。路傍で雪に埋もれた六地蔵に「寒かろう」と笠を被せてあげた。そんな心温まるストーリーである。

宗清寺の「笠被り地蔵尊」も風雨に耐える地蔵さんに、親心で笠を被せてあげたのであろう。

パフォーマンス披露

富士宮高校会議所が大会

富士宮高校会議所はこのほど、「第3回高校生パフォーマンス大会」を富士宮市中央町の駅前交流センターきららで開催した。

富士宮西高書道部、富士宮高等専修学校軽音部、富士高音楽部、静岡西高音楽部が出演。高校生たちによる元気あふれるステージ発表で地域を盛り上げ、地域愛を深める機会とした。

高校生たちによる演出の他、富士宮市出身で人力舎に所属する芸人の飯田遼太さんによるパフォーマンスなども盛り込んだ。

富士宮高校会議所は会員23人で組織しており、富士宮市の活性化に向けて、高校生ならではの視点で地域振興やビジネス手法を実践から楽しく学ぶ活動を展開している。

富士高音楽部によるバンド演奏

大人を対象に昔話を聞く会

東図書館で11月1日

富士市立東図書館（吉永まちづくりセンター併設）は11月1日（木）、成人を対象にした「昔話をきく会」を同まちセン2階研修室で開く。午前10時―11時。参加無料。申し込み不要。

語り手は、富士・ストーリーテリング研究会のメンバーが担当。さまざまな昔話の中から、大人向けのプログラムで語る。

同研究会は、市内の小中学校でストーリーテリング（語り）を実演しているボランティア。テキストを見ずに日本の昔話やグリム童話、創作文学など、さまざまな話を披露している。

問い合わせは同館（☎38―1550）

12種目150鉢並べ菊花展

31日から新富士駅

富士市近郊の菊愛好家で組織する新富士菊花会（稲葉利幸会長）は31日（水）から、第30回新富士菊花展を川成島のJR新富士駅北口で開催する。初日は午後から、最終日は正午まで。

会員20人が、12種目約150鉢を出展する。

11月2日（金）には審査を行い、市長賞や市議会議長賞などを決定する。

問い合わせは、幹事の藤田さん（☎3513―90）。